

⑤ 幅広い国際交流

2

経済・
技術交流

横浜経済の発展の歴史は、ある意味で、わが国の産業構造の高度化、国際化の歴史の投影であるといえる。戦前の軽工業、戦後の重化学工業の発展、そして最近における先端技術産業の振興という国の産業政策の基本方向にそって、横浜は常に重要拠点として機能してきた。国際貿易港としての横浜港がそうであり、京浜工業地帯を擁する先進的工業の集積もそうである。

このように、外国との貿易が横浜経済の重要な一翼を占めていることは明らかだが、問題がないわけではない。産業別や企業レベルにおいては、難しい問題が横たわっている。たとえば、横浜の工業は、いち早く重化学工業構造への対応を行い、輸出

産業の色彩を濃くしてきたのに対し、横浜の貿易商社機能は、工業の高度化の波に乗りきれず、繊維・雑貨貿易への依存から脱皮しきれずにいる。最近、とみにいわれる横浜港の物流港化とか横浜の商流機能の低下といった問題の大きな要因の一つは、この地場の貿易商社の弱体化にあるといえよう。

地場商社の振興を図るにあたって、①貿易市場の偏在性、②輸出商品構造の後進性、③輸入基盤の弱さ、という構造的弱点を克服していくことが必要で、横浜市はこれまでに幅広い対策を行ってきた。具体的な対策としては、貿易商社とメーカーとの連携を強めることにより工業製品輸出への転換を促進する「開発技術型輸出促進事業」、発展途上国への工業化協力、あるいは、輸出市場の拡大策としての海外見本市などの開催、技術研修生の受入れなどを実施してきている。

今後、横浜の貿易を推進していくのは輸出指向の工業と地場貿易商社の両輪である。貿易摩擦、中進国の追いあげなど海外情勢の変化のなかで、多角的かつ積極的な対応が、横浜の企業・業界・行政とそれぞ



「横浜工業展覧会」は中国で開催された自治体主催初の工業展覧会である

れのレベルにおいて、また、相互の緊密な連携をもって行われなければならないであろう。

■上海で横浜工業展覧会

昭和五四年に上海で開催された「横浜工



開催中の入場者は10万人を超えた—「横浜工業展覧会」

業展覧会」は、横浜の国際交流の歴史において画期的な意味を持つイベントであり、また中国で開催された地方自治体主催の初めての工業展覧会であった。横浜の地場貿易産業の振興に資するとともに、経済交流によって中国の工業の近代化に協力するものであった。今後の都市交流の方向を示したものと見えよう。

実施機関は、横浜市を中心に神奈川県、横浜商工会議所など関係一八団体が構成。上海展覧館東一館、東二館四六〇〇㎡を使用し、日本側参加企業は六二社であり、開催中の入場者は一〇万人を超えた。出品された工業製品は、横浜の工業を代表する電子機器、輸送機器、工作機械を中心に多方面にわたる現代工業技術の粋を集めたものであった。また、具体的な商談が上海側と行われ、総計二四一点、四億円にのぼる成約となった。このうち地場中小企業の成約は五四%を占めたが、これは専門分野での優秀な技術が評価されたためである。商談と並行して行われた技術交流座談会、都市セミナーは極めて好評で、直接、ユーザー、技術者、都市計画関係者と意見交換を行いながら相互理解を深め、商談成立に側面から協力し、好結果を生んだ。

五五年九月、上海での「横浜工業展覧会」にこたえるものとして、「上海工芸品展覧会」が横浜で開催された。上海市主催の展覧会は海外で初めての試みであり、横浜市は県、商工会議所、地元業界など関係八団体で万全の受入態勢をしいた。会場は産業貿易センター一、二階展示場三二二七㎡、

出品は中国が誇る毛糸刺しゅう、彫刻などの工芸品を中心に五〇三七点にのぼる規模なものであった。またあわせて、上海博物館珍藏文物展や地元商社の協力による記念即売会も行われ、ともに好評であった。「上海工芸品展覧会」は総計二五万人の入場者を数えるなど大成功に終わった。

■アジアとの経済交流会議

一方、東南アジア諸国との交流を深めるため、五四年と五六年の二回にわたって「アジア地域経済交流横浜会議」(略称YCED A)が開催された。第二回会議には香港、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイの八か国地域から一五人の代表が参集した。各国との経済交流、技術協力を通じた相互共存の方策について活発な意見交換がなされ、今後これらの国との経済交流の拡大、貿易促進についての展望を切り開いた。また、第二回会議では、アジア各国の商工会議所代表に加えて、第一線で活躍している企業家代表も加わった。このため、会議が幅広く多様性のあるものとなり、前回に



東南アジア諸国との経済交流会議も56、57年に開催された

比べより具体的で突っ込んだ討議が行われた。また会議と並行して具体的な商談会が初めて開催され、横浜側から六六社の参加があり、各種商談が進められたほか、アジア側からも企業進出や技術提携の打診が行われ、予想以上の成果をおさめた。さらに、会議開催中に市民交歓会が行われ、アジア代表と一般市民との間で意見交換や交流の

場が設けられ、アジア地域と横浜との交流を進めることの重要性が一般市民に理解されるのに役立った。

■技術交流・技術協力を促進

横浜市が推進している経済交流・技術交流は、多方面にわたる実績が重ねられている。そのなかでも極めてユニークで横浜らしい交流としては、実務的な技術交流団の派遣と発展途上国からの技術研修生の受け入れ事業がある。

各種技術交流団の派遣は、主に(財)横浜工業館が実施に当たっている。横浜の中堅・中小企業のなかには高い技術水準をもった個性的な企業が多い。このような横浜の産業上の特質を生かし、実務レベルの技術専門家を中国を中心に数多く派遣し、技術交流の実をあげ、派遣先から大いに感謝されている。このような交流を通じて具体的な商談、取引につながる例が少なくない。また、発展途上国からその国の将来を担う有為な人材を受け入れ、専門的な技術研修を行い、途上国の経済発展を援助し相互の友好関係を増進させる事業も実施してい

る。これまでに東南アジア、中国、中近東から三十一名の研修生を受け入れ、工業技術、都市計画、土木技術、造園などの分野で研修を行い、発展途上国の人材養成に協力している。



発展途上国からの技術研修生の受け入れも、ユニークな交流の一つ